

さけ・ます増殖管理推進事業調査（サケ関係） （抄 録）

菊谷尚久

沿岸漁獲調査

1. 1999年漁期の沿岸回帰サケ親魚の旬別の沿岸漁獲量を集計した。
2. 1999年漁期の各海域での漁獲尾数は、太平洋688,499尾（前年比61.3%）、津軽海峡203,086尾（前年比69.2%）、陸奥湾内3,917尾（前年比52.7%）、日本海46,668尾（前年比100.4%）であった。来遊資源としては1984年以降の最低水準であった昨年をさらに下回った。

沿岸環境調査（太平洋におけるサケ回帰親魚の環境調査）

1. 1999年9月から12月の期間中、試験船「開運丸」によるCTD観測を実施した。
2. 1999年の青森県太平洋側沿岸域の秋季の海況条件を1997,1998年と比較すると、津軽暖流の勢力は、9月は1997年並であったものの、10月以降急速に強勢となっていた。しかし、11月以降の親潮系水の張り出しは1998年と同様に非常に少なかったものと考えられた。

移動分布調査

1. 1999年4月から5月にかけて、青森県日本海、津軽海峡沿岸及び陸奥湾口部において、サケ幼稚魚の分布、成長及び移動に関する調査を行った。
2. サケ幼稚魚は、鱒ヶ沢沖17尾、小泊沖1,842尾、今別沖20尾、佐井沖81尾の合計1,960尾を採集した。
3. 各海域で採集されたサケ幼稚魚の平均尾叉長は、鱒ヶ沢沖49.0～81.5mm、小泊沖56.6～70.3mm、今別沖55.0～86.3mm、佐井沖75.7～90.7mmの範囲にあった。
4. 標識放流は1999年4月1日に、L群20,000尾（FL51.8mm）、S群148,837尾（FL50.2mm）を赤石川サケ・マスふ化場より行った。再捕尾数はS群55尾でありL群は再捕されなかった。海域別では、鱒ヶ沢沖1尾、小泊沖53尾、今別沖1尾であった。
5. 日本海沿岸域におけるサケ稚魚の移動と体サイズとの関係が明らかとなった。

環境調査（日本海における放流稚魚の環境調査）

1. 1999年3月から5月にかけて、鱒ヶ沢町における毎日の表面水温及び塩分を測定した。また、赤石川1ヶ所、沿岸7ヶ所（大戸瀬、赤石、鱒ヶ沢、十三、小泊、今別、佐井）の地先に記録式MDS水温計を設置し、表層水温を連続して観測した。
2. 鱒ヶ沢における表面水温は、昨年をおおむね0.5～2.5℃ほど下回って推移していた。平年と比較すると、3月下旬から4月上旬にかけて平年を下回ったものの、それ以外ではおおむね平年並か平年を1.5℃ほど上回って推移していた。春季の塩分量の低下は、昨年とほぼ同時期の4月中旬から5月中旬にかけてみられた。
3. 大戸瀬地先における日平均表層水温は、おおむね昨年を0.5～2.5℃ほど下回って推移していた。また、赤石川の水温は5月までは沿岸水温より2℃以上低めで推移し、6月以降急速に昇温していた。